



第385号
 編集責任 筑波大学新聞 編集委員会
 TEL・FAX 029(853)6699
 E-mail shinbun@un.tsukuba.ac.jp
 発行所 筑波大学 茨城県つくば市 天王台1-1-1

小林教授(生環系)に紫綬褒章

新規酵素を次々発見



小林達彦教授

政府は11月3日、2024年秋の褒章受章者を発令し、筑波大の小林達彦教授(生環系)が紫綬褒章に選ばれた。同章は科学技術分野における発見・発見やスポーツ・芸術分野で優れた業績を挙げた人物に授与される。筑波大での現職時の受賞は6人目となる。

(小野さくらII生物資源学類1年)

や酵素の触媒機構の解明に取り組んできた。その過程で発見・同定した酵素は計7個に上る。

16年にはゴマ由来の生理活性物質であるセサミンを分解する微生物を発見し、その代謝酵素を同定することにも成功した。セサミンを分解する細菌の同定は世界初だった。

セサミンには身体に有害な活性酸素を除去する抗酸化作用があるが、その代謝物にはセサミンを上回る抗酸化作用がある。小林教授らが見つけた酵素を活用することで、セサミンの代謝物の大量生産が可能となる

小林教授が微生物研究の道に進んだのは、米国の微生物学者でノーベル医学士ともあったが、「微生物から有用な物質を取り出し、物とともに」を学生時代に読んだことがきっかけだ。

ワックスマンは放線菌という微生物から結核の治療薬「ストレプトマイシン」を発見しており、「微生物が織りなす世界の広さに心打たれた」と振り返る。

その後の研究生活では、思うような結果が出ず、「アブローチ方法に疑問を感じ



そぼたんグッズを身につけ楽しそうに歩く来場者(11月4日、中央図書館前で) = 川上真生撮影

雙峰祭に3万人集う 節日の50周年 3000企画を実施

第50回筑波大学学園祭(雙峰祭)が11月2〜4日に開催された。50周年の節目を迎えた今年のテーマは「筑波ろ」。筑波大らしい新しさを「そぼろ」(想像創造)としてほしいという意味が込められた。2日に予定されていた前夜祭は雨天中止となったが、模擬店やステージパフォーマンスなど昨年を上回る約3000企画が行われ、本祭の2日間合わせて約3万人が来場した。

(山本貴世II国際総合学類2年、8、9面に関連特集)

学園祭実行委員会(学実委)は、50周年を記念した委員会企画を実施した。大学会館では雙峰祭の歴史を振り返る展示会「Imagine the 雙峰祭」が開かれ、松美池前には来場記念フォトスポット「そぼにゅめんと」が置かれた。また、筑波キャンパス各所を巡るスタンブラリー「そぼたんハンティング」も実施された。

「筑波大グロバルコミュニケーション教育センター」(CEGLOC)周辺なども今年は新たに模擬店のスペースとなり、企画者による売り込みの音が飛び交った。

前夜祭では石の広場の「UNITED STAGE」でステージ企画や樽酒振る舞いの鏡開きが予定されていたが雨天中止となり、TSUKUBA COLECTION(ツクコレ)のパフォーマンスなど一部企画はインターネット配信での公開された。

例年、案内所で無料配布されていたパンフレットは、雙峰祭の財政状況を改善するため1冊200円に有料化された。

4日午後には、石の広場でアーティスト「TOOB」の特別ライブがあり、約600枚のチケットが完売。タオルなどグッズを持ったファンも詰め掛け、会場は大盛り上がりを見せた。

雙峰祭のラストを飾る後夜祭では、ツクコレや雙峰祭クラブの表彰式、お笑いライブや雙峰祭タイジェストの上映、花火の打ち上げが行われた。

ツクコレは全ての出場者が平等に自己表現できるような今年から男女枠が撤廃された。クラブには神代亜子さん(芸専3年)が選ばれた。準クラブには木谷樹さん(同4年)、特別賞は澤田乃愛さん(生専2年)が受賞した。

来場者の投票で人気企画を決める雙峰祭クラブでは、一般企画部門最優秀賞に全学学類・専門学

群・総合学域群代表者会議(全代会)有志による「珈琲・俺」が輝いた。ハタ。ステージ企画部門最優秀(コグマ)が選ばれた。

柔道グランドスラム東京 田中が初優勝 ロス五輪へ弾み

(体専2年)



決勝で果敢に技を仕掛ける田中(12月7日、東京体育館で) = 川畑悠成撮影

【東京体育館(東京都渋谷区)で山本貴世II国際総合学類2年、川畑悠成II知識情報・図書館学類1年、世界最高峰の柔道国際大会「グランドスラム東京2024」が12月7、8日に開催された。筑波大の田中龍雅(体専2年)が男子73kg級で初優勝し、ロス五輪への一歩を踏み出した。男子66kg級では兄の田中龍馬(令和5年度体育専門学群卒)が3位となり、兄弟で表彰台に立った。また、男子90kg級でも田中剛希(令和元年度同卒)が3位となった。

田中龍雅は今回が初出場。1、2回戦を得意の袖釣込腰と背負投で一本勝つてのグランドスラム大会

「今回の受賞について小林教授は「受賞できることは思っておらず、驚いた。今後新しい酵素の発見や未知なる現象の解明ができればと思う。学生が今より成長した姿を見届けることも楽しみだ」と話した。

注目記事

衆院選 市長・市議選 出口調査
 未来社会デザイン棟着工
 本紙50周年企画 つくばマップ展
 女子バレー インカレ2連覇
 柔道白金、谷岡、福永学生日本一

11 10 4 3 2

特集
 筑波大マレーシア校 6・7
 海外進出した日本型高等教育

特集
 青春刻んで50年 8・9
 みんなで「筑る」雙峰祭

資産運用の行動規範受け入れ

機関投資家向け 国立大初

筑波大は9月2日、国立しながら受益者の利益を最大として初めて、政府がまとめた機関投資家向けの行動規範「アセットオーナー・プリンシプル」を受け入れると発表した。同規範は資産の運用目的などを明確に定め、適切にリスク管理

する最善の利益追求と説明責任を高める「いきたい」と話している。

同規範は今年8月、政府が策定した。アセットオーナー(公的年金、共済組合、企業年金、保険会社、大学ファンド、資産運用を行う学校法人など)が、それぞれの置かれた状況に応じて受益者などに適切な運用成果を得られるようにするための共通原則だ。

筑波大は今年4月、事業・ファイナンス局を新設し、独自の「筑波大学運用モデル」と呼ばれる資産運用戦略を掲げた。このモデルでは、運用収入の増加と資産運用ができる人材育成を二本柱とし、他大学の職員も受け入れて育成したり、資

田中龍雅は今回が初出場。1、2回戦を得意の袖釣込腰と背負投で一本勝つてのグランドスラム大会

田中は試合開始から積極的に攻め、残り1分18秒に体落で技ありを先取。その後は相手の技をかわし切り、優勢勝ちした。

決勝では今年の世界選手権準優勝、石原樹(ジャパニーズレベーターサービス)と対戦。田中は試合開始から積極的に攻め、残り1分18秒に体落で技ありを先取。その後は相手の技をかわし切り、優勢勝ちした。

試合後、田中は「優勝した。パリ五輪のメダルリストを得ていた。

「高収入」などの甘い言葉には裏がある。人間として成長させてくれるバイト先に出会え、幸せだった。今は、留学でさらに成長することばかり。会計に手取り、お

も出場していた階級で勝って、自信につながった。来年の世界選手権に出く果を残せるよう調整していきたい」と話した。

男子60kg級に出場した福田大悟(体育P2年)は2回戦敗退、女子63kg級の堀川恵(平成29年度体育専門学群卒)は3位決定戦をけがにより不戦敗した。

田中と福田は先月の講道館杯全日本体別選手権で優勝し、今大会への出場権を得ていた。

筑波お話し

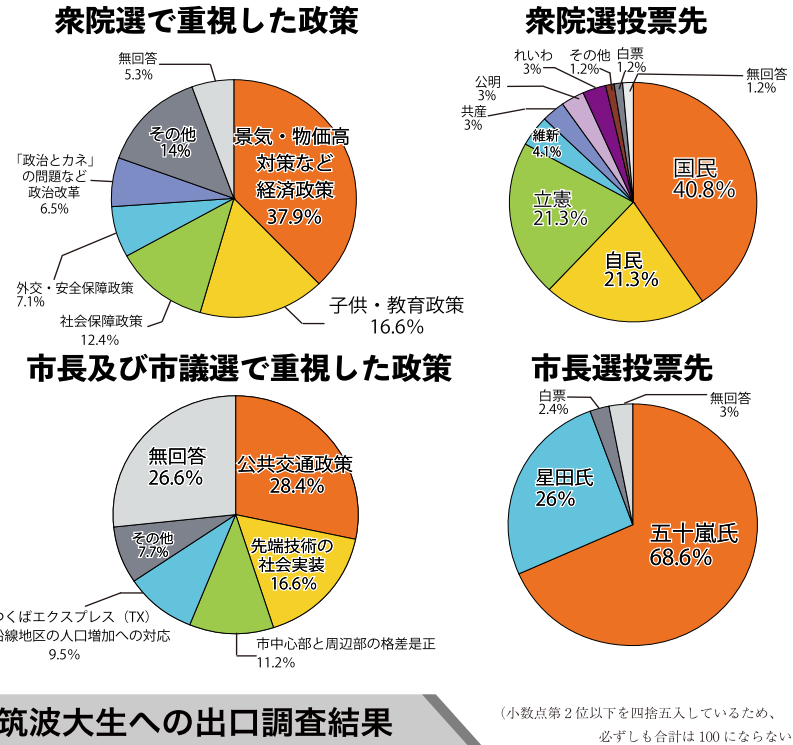
筑波大入学後、約1年半続けたアルバイトを辞めることにした。来春から韓国に留学するからだ。勤務先の社長にスマートフォンでメッセージを伝えると、1時間後に返信が届いた。「辞めようとは残念だけれど、留学できることは素晴らしい。人生で重要な経験になるので頑張ってください。胸がいっぱいになった▼人生で初めてのバイト先だった。仕事はクッキーやケーキなどの菓子販売。甘いのが好きで、応募した。これからはよろしくね」と、エプロンを手渡された時はうれしかった▼しかし、仕事は甘くはなかった。研修が終わると、一人で店舗に立つようになると、うまくいかなかった。会計に手取り、お

客様の顔が曇っていく。商品を箱詰めする際に、お客様に確認しないまま誤った商品を入れてしまい、チームの電話をもらったことも。閉店後に売り上げとレジに残った金額が合わなかった時には不安で泣いてしまった▼失敗する度に社長は「なぜできなかったのかを考え、同じ失敗はしないように」と注意してくれた。1年経っても自分が何やらかすのではと緊張したが、原因を考え、失敗を繰り返さないようになつた▼「アルバイト」による事件が世間を騒がせている。「ホワイト案件」「高収入」などの甘い言葉には裏がある。人間として成長させてくれるバイト先に出会え、幸せだった。今は、留学でさらに成長することばかり。会計に手取り、お

「景気・物価高」対策重視

衆院選市長選・市議選 筑波大生に出口調査

本紙は10月27日投票の第50回衆議院議員総選挙と任期満了に伴うつくば市長選及び同市議選で、出口調査を市内9区投票所で実施し、筑波大生169人から有効回答を得た。つくば市を含む茨城6区は、青山大生候補(立憲民主党)に投票したと回答した学生が85人(50.3%)を占めた。また、比例代表北関東ブロックでは国民民主党に投票したと回答した学生が69人(40.8%)と最も多く、総務省が発表した全国の比例代表の党派別得票率における同党の割合(11.3%)を大きく上回った。市長選挙では、五十嵐立憲候補(無所属)に投票したと回答した学生が116人(68.6%)だった。



筑波大生への出口調査結果 (小数点第2位以下を四捨五入しているため、必ずしも合計は100にならない)

茨城6区には共に前職の青山候補と国光文乃候補(自由民主党)、新人の間宮美知子候補(日本共産党)が立候補した。得票率は青山候補が49.2%、国光候補が43.9%、間宮候補が6.7%で、青山候補が当選した。国光候補は比例代表で復活当選した。今回の出口調査で国光候補に投票した学生は67人(39.6%)、間宮候補に投票した学生は7人(4.1%)で、白票5人、無回答5人だった。小選挙区の投票先を選んだ理由では「公約を支持しているから」が47人(27.8%)、「候補者や政党の印象が良いから」が44人(26%)と上位を占めた。比例代表の投票先では、国民に次いで自民と立憲が36人(21.3%)で並んだ。

比例代表の投票理由は、「政策を支持しているから」が65人(38.5%)と最も多く、「支持政党だから」が36人(21.3%)、「政党の印象が良いから」が33人(19.5%)と続いた。衆院選で投票の際に最も重視した政策は、「景気・物価高対策など経済政策」が64人(37.9%)で最も多く、次いで「子供・教育」が43人(25.5%)となった。市長選挙では現職の五十嵐候補、新人の星田弘司候補(無所属)が立候補。五十嵐候補が星田候補を破り3選を果たした。今回の調査で五十嵐候補「候補者の印象が良いから」に投票したと回答した学生

「誰一人取り残さない」市政に 筑波大卒 五十嵐市長3選 つくば市長選で3期目のなつくばへをテーマに、当選を果たした五十嵐立憲氏(平成18年度人文社会学部科学研究科修士)はつくば市出身。同市議を経て2016年に市長選で初当選を果たした。今回の選挙戦では、「誰一人取り残さない」と語った。今回の選挙で

新市議には 伊藤氏 つくば市長選と同時に投票された市議選では、伊藤文弥氏(平成22年度化学類卒)が初当選した。伊藤氏は愛知県出身。筑波大在学中だった2008年2月、NPO法人ドットジェイビー主催の議員インターシップに参加したことをきっかけに、当時、市議だった五十嵐立憲氏と共につくばNPO法人「つくばアグリチャレンジ」(現ユアフィールドつくば)を立ち上げた。当初は障害のある人たちが働く農場の運営が中心だったが、事業はグループホームや訪問看護ステーション、生活介護事業所の運営などに広がった。「事業を通して、まだ目を向けていない地域の課題があると感じた。地域全体の福祉レベルを上げるには、市での独自の取り組みが必要だと考えた」と立候補の経緯を振り返った。市議選では、インクルーシブ社会の実現や多様な学び場の創出、農業で地域をもっと楽しんでもらうことなどを訴えた。当選を受け伊藤氏は「福祉事業者、スクールカウンセラーや保護司など、多角的な福祉の経験を経験して市政に反映させ、一歩一歩着実に前進していきたい」と語った。(惣田堅斗、青野心平 物理学類2年)

ネット投票で退職金決定 つくば市長 投票率は約0.8% 五十嵐立憲・つくば市長の2期目の退職金額を決める。市民のインターネット投票が11月11日に実施された。0点から100点まで10点刻みで市民から評価を受け、投票料月額に0.627と支給総数1048人の平均点率は4.7点だった。その結果、つくば市長2期目の退職金額は、退職金計算の基礎となる退職日給額が101.1人と続いた。

を決めるのは全国初の今回の模擬投票には、署名用電子証明書機能を持っていたマイナンバーカードを持つ15歳以上のつくば市民が参加できた。投票率は約0.8%で、投票者が下した評価の内訳は100点が219人で最も多く、80点が160人、70点が133人、0点が119人、90点が101人と続いた。

五十嵐市長は「選挙以外の市民が政治家を評価できる機会を作ることができた。市民一人一人の評価が必ず退職金の金額に反映されるため、投票者は一票の重みを実感できたのではないかと語った。これに対し、政治社会学が専門で電子投票に詳しい山本英弘教授(人社会学部)は「ネット投票に対する市民

短期雇用 10月から時給50円増 初の1000円超え 筑波大は10月1日、筑波キャンパスなど茨城県内での短期雇用の時給を50円増の1010円に改定した。県内の最低賃金が同日、前年比52円増の1005円に引き上げられたことに伴

Advertisement section with large text '広告欄' and contact information 'shinbun@un.tsukuba.ac.jp' and 'までお願いします。'

未来社会デザイン棟着工 宿舎のシンボル 25年度中に供用へ

学生宿舎リニューアル計画の一環となる「未来社会デザイン棟(仮称)」の建設が10月25日、平砂学生宿舎共用棟北側で始まった。先端的な教育研究を實踐し、学生文化を発信する場とする計画で、学生宿舎エリアを象徴する建物となる。総工費約29億円のうち約8億円を大学債で賄う。2025年度中の供用開始を予定している。(壬生奏太 地球学類1年、川上真生)



未来社会デザイン棟(仮称)の外観イメージ=学生生活課提供

同棟は鉄骨造り一部3文化の発信と多様な企業が階建てで、延べ床面積は5270平方メートル。ガラス張りが基調の外観となる。筑波大の特徴である「学住近接」を生かし、先端的な教育研究の實踐及び学生デザインコンセプトは「未来を創り出す人材育成」の三つを進めることを主目的に掲げている。デザインコンセプトは「Under "one" Roof」。大屋根の下に核となるオープンスペースが1階(1037平方メートル)と2階(802平方メートル)には設けられ、自由に移動できる。企業の共同研究室は3階に独立して設けられる。このほか、イベントホールや喫茶コーナーも設けられ、学外者の利用も可能とする。T-ACETや課外活動団体の発表、学生の学習スペース、地域住民や企業との交流、国際交流の場などとして活用する。隣接する平砂学生宿舎共用棟は今後取り壊し、広場に作る計画だ。



博士号「お鳥だ。……」
博士号「……」
博士号「……」
博士号「……」

従来の大学施設とは異なるため、副学長(学生担当)や学生生活課などで構成される事業推進委員会を24年度中には設置し、同棟の管理・運営について検討を開始する。学生部の中澤秋夫部長は「大学は学生がやりたいことを実現できる場所を提供するので、さまざまな発想で活用してもらいたい。また建物を中心に地域住民や企業と交流する中で、社会課題解決に貢献する人材が育ってほしい。運営方法については学生の意見も聞きながら決めたい」と話す。学生宿舎の全面リニューアル計画については整備戸数や各居室の面積などの基本計画を検討中だという。当初は25、29年にかけて実施する予定だったが、中澤部長は「物価高騰や人手不足などの影響も考慮する必要があるため、スケジュールを調整中」と話している。

実際の設計は外部の建築事務所へ依頼したが、芸術専門学群や社会学学位プログラムで建築を学ぶ有志学生から提案されたアイデアも生かされている。

「酒気帯び運転」にも罰則 改正道交法
自転車走行中にスマートフォンなどを使う「ながら運転(ながらスマホ)」の罰則を強化し、自転車の酒気帯び運転の罰則を新設した改正道交法が11月1日に施行された。つばは市内では自転車が絡んだ交通事故の発生割合が茨城県内の他地域に比べて高くなっている。つばは署は10月に筑波キャンパスで啓発活動を行うなど、周知徹底と取り締まりの強化に取り組んでいる。

自転車の「ながら運転」はこれまで、各都道府県の公安委員会規則で禁止されており、違反した場合は「5万円以下の罰金」だった。改正道交法では、走行中にスマホを手を持って通話や画面を注視するなどしただけで「6カ月以下の懲役

視覚障害がある選手がプレーするゴールボールの体験会と講演会が10月6日、TAC取手トレーニングセンター(茨城県取手市)で開かれた。体験会には幼児から高齢者まで22人が参加。東京パラリンピックゴールボール男子日本代表で取手市出身の山口凌河選手(関影商事)と同女子代表で銅メダルに輝いた高橋利恵子選手(同・令和3年度障害科学学位プログラム修了)の指導を受け、ゲームを楽しんだ。山口選手はイベント終了後、「競技の難しさ、選手のすごさが伝わったな」と話していた。

ゴールボールは1チーム3人で、鈴が入った約1.3メートルのバスケットボール大のボールを投げ合い、得点を競う。選手は全員目隠しをしており、コートに取り付けた目印やゴールに触れて位置を把握する。参加者はまず、床に寝ころび守備の姿勢を練習。手足の伸ばし方について、選手からアドバイスを受け、その後3人1チームに分かれ、ボールを投げる練習をした後に試合を楽しんだ。

日本代表とゴールボール体験 選手のすごさ間近で体感

その後の講演会には41人が参加した。筑波大からも齊藤まゆみ教授(体育系)や大学院生ら9人がボランティアとして運営に携わった。(横山心咲 比較文化学類2年、川畑悠成)

また、10万円以下の罰金となる。ながら運転、事故などの危険を生じさせた場合は「1年以下の懲役または30万円以下の罰金」が科せられる。

また、自転車の酒気帯び運転(呼吸器測定値0.15以上)に関する罰則が新設され、「3年以下の懲役または50万円以下の罰金」となった。改正前はアルコールの影響で正常な判断ができないうちに「酒酔い運転」に限って処罰の対象だった(5年以下の懲役または100万円以下の罰金)。

さらに、自動車や二輪車と同様に飲酒運転をする恐れを取り除くので、あいさつや返事など当たり前のコミュニケーションの大切さを感じられる」と答えている。

高橋選手は「競技を通して出会った人々は、視覚障害があってもさまざまなことに挑戦していた。自分にもいろいろなことができて感じ、世界が広がった。今回のイベントは特定非営利活動法人「つばはアクティブ研究所(代表・野村武男筑波大名教授)」の健康運動指導士、永松尚さん(平成18年度体育研究科修了)が「障害者、健常者にかかわらず、それぞれが自分の能力を生かせる社会を作りたい」との思いで企画した。筑波大からも齊藤まゆみ教授(体育系)や大学院生ら9人がボランティアとして運営に携わった。(横山心咲 比較文化学類2年、川畑悠成)

現在の研究テーマは「気」から合成した二字漢語の意味の対照だ。例えば、中国語の「気味」には匂いという意味があるが、日本語ではその意味はあまり使われていない。

自転車の「ながらスマホ」厳罰化

また、10万円以下の罰金となる。ながら運転、事故などの危険を生じさせた場合は「1年以下の懲役または30万円以下の罰金」が科せられる。

また、自転車の酒気帯び運転(呼吸器測定値0.15以上)に関する罰則が新設され、「3年以下の懲役または50万円以下の罰金」となった。改正前はアルコールの影響で正常な判断ができないうちに「酒酔い運転」に限って処罰の対象だった(5年以下の懲役または100万円以下の罰金)。

さらに、自動車や二輪車と同様に飲酒運転をする恐れを取り除くので、あいさつや返事など当たり前のコミュニケーションの大切さを感じられる」と答えている。

高橋選手は「競技を通して出会った人々は、視覚障害があってもさまざまなことに挑戦していた。自分にもいろいろなことができて感じ、世界が広がった。今回のイベントは特定非営利活動法人「つばはアクティブ研究所(代表・野村武男筑波大名教授)」の健康運動指導士、永松尚さん(平成18年度体育研究科修了)が「障害者、健常者にかかわらず、それぞれが自分の能力を生かせる社会を作りたい」との思いで企画した。筑波大からも齊藤まゆみ教授(体育系)や大学院生ら9人がボランティアとして運営に携わった。(横山心咲 比較文化学類2年、川畑悠成)

現在の研究テーマは「気」から合成した二字漢語の意味の対照だ。例えば、中国語の「気味」には匂いという意味があるが、日本語ではその意味はあまり使われていない。

つばはでの生活は「静かな街で、勉強に専念しやすい環境がある。サークル活動も充実している」と満足している。

留学生の声

中国 明浩璇
人文学学位プログラム

「茶道は静寂な環境の中で、集中力を高めながら気分転換できる。華道は心を落ち着かせながら自分の審美眼を磨ける。いずれの活動でも、日本人学生と仲良くなれる」と

「茶道は静寂な環境の中で、集中力を高めながら気分転換できる。華道は心を落ち着かせながら自分の審美眼を磨ける。いずれの活動でも、日本人学生と仲良くなれる」と

ミスユニバーシティに 神谷さん(医学5年)

「自分の成長につながった」

全国の大学生、専門学校生の中から日本一を決めるミスコンテスト「MISS UNIVERSITY」の2024年日本大会が9月23日に東京都内で開かれ、神谷真衣さん(医学5年)がグランプリに輝いた。日本大会は地方大会を勝ち抜いた14人で争われた。審査は、コンテストまでの約9カ月間にわたるレッスンの取り組みや、当日の1分間スピーチ、質疑応答、ドレスウォーキングなどを基に行われた。神谷さんは友人から同コンテストを紹介された。外見だけでなく内面も審査され、自分の成長にもつながると考え、出場を決めたという。

神谷さんは東京都内で小児病棟ボランティアとして活動しており、子供の心身の健康をサポートできる医師になることを目指している。受賞について「9カ月間の努力が報われ達成感があった。周りからの支えがあったからこそ、乗り切れたことも多く、感謝の気持ちでいっぱい。未来を担う子どもたちについて社会に発信する機会にもなった」と語った。(川畑悠成)

日本語教師の力高める

筑波キャンパスで改正道交法の内容を伝えるヒラ配布などを行った同署交通課の担当者「法改正を知らない学生も多かった。特に留学生は日本の交通マナーに慣れないことが多く、周知を徹底したい」と話した。

同署によれば、2023年につばは市内で発生した交通事故件数は555件。うち、自転車事故の割合は20.2%で、県全体の14.3%を上回っている。(兼平麻央 比較文化学類1年)

筑波大学里仁学院日本語学科に入学した。「日本語ができれば、就職しやすいと考えた」という。同学院卒業後の16年に柱さんと結婚。19年には娘が生まれた。結婚後は義父が同省河



「茶道は静寂な環境の中で、集中力を高めながら気分転換できる。華道は心を落ち着かせながら自分の審美眼を磨ける。いずれの活動でも、日本人学生と仲良くなれる」と

本紙50周年企画 つくばマップ展

キャンパスの変遷たどる



つくばマップを見て懐かしむ来場者ら (11月3日、中央図書館で)

本紙の新生歓迎号に掲載されてきた「つくばマップ」の変遷をたどる展示会が10月25日～11月4日に中央図書館で開かれた。本紙の創刊50周年記念企画で、1981年の初登場から今春まで計44枚のマップから各時代の特徴を色濃く伝える14枚を展示した。筑波大学学園祭(豊峰祭)期間中には、マップを鑑賞し学生時代を懐かしむ卒業生らの姿も見られた。

(川畑修成、写真も)

つくばマップ(旧いらすとマップ)では、筑波キャンパス周辺の飲食店や大学の主要施設などを紹介してきた。

2008年までのマップは手描きで、つくば科学博物館が開催された1985年のマップでは、会場までの近道が紹介されている。ま

た、2001年のマップは筆書きで描かれるなど、展示会のサブタイトル「筑波キャンパスと学生生活の変遷を追う」の通り、時代に合った味わい深さが伝わってくる。

また、時系列順にマップをたどると、筑波キャンパス周辺の飲食店や古書店、レコードショップなどの栄枯盛衰も浮かんでくる。

来場した比較文化学類4年の男子学生は「コロナ禍の時に入学して、このマップを見ながら散歩をした。かつての手書きマップも、現在のデジタル化したマップのどちらにもそれぞれ良さがある」と語った。

今後、これまで掲載された計44枚のマップをデジタル化し、筑波大の基幹サイトに公開する予定だ。

MC展 44作品集う

地域に学生の熱意伝える



鑑賞者に自作の説明をする増田さん (11月14日、茨城県つくば美術館で)

筑波大芸術学学位プログラム博士前期課程の学生の作品を集めたMC展が11月12～17日、茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で開かれた。学生26人による洋画22点、版画3点、日本画19点が展示された。同展は大学院の授業の一環として行われた。

筑波大芸術学学位プログラム博士前期課程の学生の作品を集めたMC展が11月12～17日、茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で開かれた。学生26人による洋画22点、版画3点、日本画19点が展示された。同展は大学院の授業の一環として行われた。

期間中は、出品者の学生が作品に込めた思いやこだわりを語るギャラリートークが洋画・版画と日本画の2回に分けて実施され、質疑応答を通じて来場者と交流した。

会場では来場者の注目を集めていたのは、増田凛太郎さん(芸術P前期2年)の洋画「楽しいな、楽しいねだ」。約1.3m×1.6mのキャンバスには、独特の粘つきが特徴で油絵具の一種の桐油を使い、奇怪なボ

ズをこる複数の人影を背景にたたく少年の姿が描かれている。増田さんは「理想と現実を前に『楽しい』と自分に言い聞かせる様子をイメージした」という。同展の学生代表、上村一真さん(同1年)は「芸術系以外の学生や地域の人々に向けて発信する機会になっている。学生の熱意が作品を通じて伝わればうれしい」と語った。

つくば市内から来場した女性は「学生らしい生き生きとした作品が多く、見ていて楽しい。制作した学生に直接会って、裏話や工夫した点を聞けることも魅力だ」と笑顔で話した。

(山本貴世、写真も)



11月26日、筑波キャンパスで

東大通りの両脇にはトウカエテの木が植えられており、この頃色付く学内にも落葉広葉樹が多い。歩道や駐車場は落ち葉でいっぱいになり、まるで錦織のような鮮やかな秋。おろしたての暖かいセーターを着る学生もいれば、まだ半袖サンダル姿の学生もいる。暖かげな樹木も、落葉してしまえばあたりはずぶ冬模様になる。このあつという間の鮮やかさを逃さずに楽しみたい。つくばはまもなく冬に向かう。(東風えまり)人文学類3年、写真も)

中央図書館でりんごの棚

バリアフリー本を身近に

誰もが読みやすいバリアフリー図書や障書に関連した本を展示する「りんごの棚」プロジェクトが11月6日～12月6日まで、中央図書館で開かれた。

バリアフリー図書には、点字付きの絵本や布製の触れる絵本、大きな文字の絵本、文字がほとんどなかったり、ピクトグラムや写真をたくさん使ったりした

レブック(Lはスウェーデン語で「分かりやすい」の略)など、多くのタイプがある。

りんごの棚は、知的能力に異常がないのに文字の読み書きが著しく困難な読書の子どものためにバリアフリー図書を集めたコーナーのこと。スウェーデンで1990年代に始まった公共図書館サービスだ。

中央図書館の会場にはバリアフリー図書や障書に関連した本が約90冊展示され、来場者は実際に読んで、触れたりしていた。

今回の展示は、ヒューマンエンパワーメント推進局

(BHE)の学生スタッフ(ピア・チューター)として障害学生の支援に携わる岩岡知里さん(障害3年)がT-ACCTの一環として企画した。

展示に使うポスターなどについては、専門的になりすぎないよう、障害教育に詳しくない友人らにチェックしてもらったという。

岩岡さんは「さまざまなバリアフリー図書があることを多くの人に知ってほしい。できるだけ展示を分かりやすくすることを心がけた」と語る。

会場にはりんご型の付箋に感想を書くコーナーが設けられ、「レブックを初めて見た」「誰もが楽しめる図書館が増えるといい」などの感想が寄せられた。

(金慧欣)知識情報・図書館学類2年、写真も)

本紙マスケットキャラ

名前募集中

本紙は創刊50周年を記念して決定した公式マスケットキャラクタール写真の公募が11月18日まで公開されています。

キャラクターは本紙の魅力を効果的に発信していくために作成しました。ゾウ

がモチーフで、大きな耳が新聞になっていきます。学内・学外を問わず誰でもオンラインフォーム(<https://forms.gle/Ltq2k8e4MwG8y339>)から応募できます。応募を踏まえて編集部で

名前を決定し、来年2月19日に発行予定の第386号で公表します。応募していただいた名前が採用された場合、紙面で応募者を紹介させていただきます。

名前は応募者による自作か未発表のもので、第三者の著作権等の権利を侵害しないものに限られます。応募していただいた名前がキャラクター名として決定した場合、著作権等の権利は一切本紙に譲渡していただきます。

その他応募にかかる注意事項はオンライン応募フォームに掲載しています。



展示会場前でレブックを持つ岩岡さん (11月13日、中央図書館で)

今回の展示は、ヒューマンエンパワーメント推進局

が主催する「りんごの棚」プロジェクトの一環として行われた。

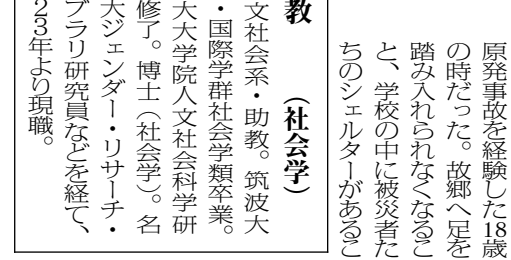
本紙は創刊50周年を記念して決定した公式マスケットキャラクタール写真の公募が11月18日まで公開されています。

キャラクターは本紙の魅力を効果的に発信していくために作成しました。ゾウがモチーフで、大きな耳が新聞になっていきます。学内・学外を問わず誰でもオンラインフォーム(<https://forms.gle/Ltq2k8e4MwG8y339>)から応募できます。応募を踏まえて編集部で

名前を決定し、来年2月19日に発行予定の第386号で公表します。応募していただいた名前が採用された場合、紙面で応募者を紹介させていただきます。

名前は応募者による自作か未発表のもので、第三者の著作権等の権利を侵害しないものに限られます。応募していただいた名前がキャラクター名として決定した場合、著作権等の権利は一切本紙に譲渡していただきます。

その他応募にかかる注意事項はオンライン応募フォームに掲載しています。



目黒茜 助教 (社会学)

人文社会学系・助教。筑波大学社会・国際学群社会学類卒業。筑波大学大学院人文社会学研究科修士。博士(社会学)。名古屋大ジェンダー・リサーチ・ライブラリ研究員などを経て、2023年より現職。

この構造災において女性

私自身もまた、10～20代に自らの身体の中からなかに戸惑い、言葉にできないモヤモヤを幾度となく感じた。このモヤモヤこそが研究者としての「原点」となっている。大きな戸惑いを初めて経験したのは、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故を経験した18歳の時だった。故郷へ足を踏み入れられなくなることで、学校の中に被災者たちのシェルターがあるこ

と、地震や津波の被害で亡くなった人々、全がひとごとではなかった。そして何よりも、目に見えない放射能に不安を感じた。

こうした非常時に人々が欲するのは専門家の見解やアドバイスだろう。当時、福島県いわき市にある高等専門学校(高専)の学生であったこともあり、理工系を専門とする先生たちならこの問題への答えを持っているだろうと思っていた。しかし震災後に目の当たりにしたのは、専門家たち自身も戸惑い、不安を抱え、葛藤している姿だった。

社会的にいうこの状況は「構造災」と呼ばれ、科学技術をめぐる制度設計や複数のアクターが織りなす仕組みの機能不全が引き起こしたものだ。後に知ることになった。この構造災において女

性の身体を持つ当事者としてみれば、モヤモヤを抱えることになった。例えば災害時における生理用品の分配問題や、将来子どもを産むことができないかどうかという不安などを経験した。その時に感じたのは、社会は女性たちのニーズを十分に把握できていないということだった。

こうしたモヤモヤと真剣に付き合ってきたのが、社会学だった。研究を通して、戦前の「女医」たちは、科学技術を巡る構造災ジェンダー秩序に挑戦した存在であり、まさに「女の健康運動」が目指してきた医学や科学の民主化を求めた活動を展開したことを実感した。現代におけるさまざまな社会問題を、一度歴史的に振り返ってみると、とても重要ではないだろうか。



応募フォームはこちらから

名前を決定し、来年2月19日に発行予定の第386号で公表します。応募していただいた名前が採用された場合、紙面で応募者を紹介させていただきます。

名前は応募者による自作か未発表のもので、第三者の著作権等の権利を侵害しないものに限られます。応募していただいた名前がキャラクター名として決定した場合、著作権等の権利は一切本紙に譲渡していただきます。

この構造災において女性

性の身体を持つ当事者としてみれば、モヤモヤを抱えることになった。例えば災害時における生理用品の分配問題や、将来子どもを産むことができないかどうかという不安などを経験した。その時に感じたのは、社会は女性たちのニーズを十分に把握できていないということだった。

記者の声



青野心平

【6、7面参照】筑波大が今年9月、マレーシアの首都クアラルンプールに開設した分校「マレーシア校」を取材した。印象的だったのは、学生たちが能動的に学ぶ姿勢にあふれていたことだ。

マレーシア校では、学生らがデータサイエンスを活用し、地球規模課題の解決策を導く力を身に付けるためのカリキュラムを組んでいる。そのために重要なのが人と人との関係性。おそろく、その本能が原動力となって人類の科学は発展してきたのである。

マレーシア校 アジアの優秀な人材確保を学ぶ姿勢を見直す契機にも

マレーシア校では、学生らがデータサイエンスを活用し、地球規模課題の解決策を導く力を身に付けるためのカリキュラムを組んでいる。そのために重要なのが人と人との関係性。おそろく、その本能が原動力となって人類の科学は発展してきたのである。

マレーシア校では、学生らがデータサイエンスを活用し、地球規模課題の解決策を導く力を身に付けるためのカリキュラムを組んでいる。そのために重要なのが人と人との関係性。おそろく、その本能が原動力となって人類の科学は発展してきたのである。

筑波時評

どのような出来事であれ、それが生じた理由や原因を求めたがるのが人というものである。おそろく、その本能が原動力となって人類の科学は発展してきたのである。

マレーシア校では、学生らがデータサイエンスを活用し、地球規模課題の解決策を導く力を身に付けるためのカリキュラムを組んでいる。そのために重要なのが人と人との関係性。おそろく、その本能が原動力となって人類の科学は発展してきたのである。

連続被災 能登地震と豪雨の偶然性 災害への備えと意識を常に

梅本通孝 准教授 (災害対策)

システム情報系・准教授。筑波大学院環境科学研究所環境科学専攻、システム情報科学研究科リスク工学専攻。博士(社会学)。日本原子力研究所研究員などを経て、2015年より現職。

通常の生活の中でいつものとかがいつも通りに回っている間は冷静に科学的な解釈が行えていたとしても、突如として非日常的特異な事象が生じると、無意識のうちどこに何か特別な存在からの警告や警戒の現れ

梅本通孝 准教授 (災害対策)

システム情報系・准教授。筑波大学院環境科学研究所環境科学専攻、システム情報科学研究科リスク工学専攻。博士(社会学)。日本原子力研究所研究員などを経て、2015年より現職。

反射鏡

外国語との付き合い方

【英文3年・女性】 英語で質問をする力が上がったと感じている。「話す」に自信がある。今は音楽を通してさまざまな国の言語に触れることが好きだ。所属している弓道同好会には留学生のチューターを毎学期務めて英語力を磨き、自信をつけた。モロッコで話されていたフランス語に興味を持ち、フランス語検定の勉強もしている。

【理科3年・男性】 ゲーム内チャットで、外国人プレイヤーと英語でコミュニケーションを取る機会がある。英語は非常に苦手だが、人と話すのは好きだ。また、韓国語も勉強中だ。仲良くなることが多いので、韓国語学習も視野に入れている。

【英文1年・女性】 中学1年時にオーストラリアに3週間短期留学した。英語を聞く力が上がったと思う。授業で仲良くなった友人と一緒に飲みに行ったことがきっかけで知った「特製飯屋Highway」(同市天久保)がとても良い。ビールの種類が豊富な店だ。友人と一緒に女子会などに使っている。さっぱりとした塩味の唐揚げがお気に入り。

【英文1年・女性】 筑波大生にはおなじみだと思うが、夏休み前に初めて行った「こおひいほす」(同市天久保)が印象深い。以前からX(旧ツイッター)で話題になっていた。おむすびカフェの「カフェレマラス」(同市春日)が初めて、周囲にも紹介している。注文を受けてからおにぎりを握ってくださる。最近では季節限定の「こおひいほす」が人気だ。インスタ映えもする。

お勧めの飲食店は

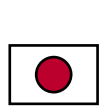
【物理3年・男性】 助産師の友人がいて、お店に行かないかと友人に誘われて初めて訪れた。骨付き肉の入ったソーキそばがおいしく、ちんすこうもおいしい。もう一度行きたい。

【文科P前期1年・女性】 aiecole(アレコレ)は、月に1〜2回行く。定番料理をアレンジし、厳選した食材を使うのが特徴だ。友人と一緒に女子会などに使っている。さっぱりとした塩味の唐揚げがお気に入り。

【地球3年・男性】 「びすとろ橋」(同市天久保)が好きだ。ピザやパスタがおいしいこと有名だ。文化祭などの打ち上げやデートスポットとしてもおすすめだ。中でも濃厚な豆腐にチーズがかかった「チーズ豆腐」がおいしい。ぜひ一度食べに行ってみよう。



イラスト=橋本萌花(芸術専門学群3年)



追跡 マレーシア校



【クアラルンプールで本紙特派員団、4面に記者の声】筑波大の海外分校「学際サイエンス・デザイン専門学群」(マレーシア校)が今年9月、マレーシアの首都クアラルンプールに開校した。今後、筑波大のグローバル化や日本・マレーシアの交流の促進に貢献することが期待されている。日本の学位を得られる分校を日本の大学が海外に設置するのは初めてで、日本型高等教育の海外展開の先駆けとしても注目される。本紙は特派員団を送って現地の反応取材し、大学の国際化の意義について考えた。



永田学長の特別講義を真剣に聞くマレーシア校の学生ら(9月3日、筑波大マレーシア校で) = 川畑悠成撮影

1期生は13人

マレーシア校は、クアラルンプール中心部にある国立マラヤ大の建物内に置かれた。同大ウイズマR&D棟の計7フロア(延べ約5000平方メートル)を借り受け、授業で使う教室、学修個室、畳を敷いた和風ラウンジなどが設けられている。

定員は1学年40人だが、第1期入学学生は13人だった(マレーシア人7人、日本人6人)。学費はマレーシア人が年3万5000リリング(約105万円)、その他は3万8000リ



今後のビジョンを語る辻村学群長(9月1日、マレーシア校で) = 川畑悠成撮影

地球規模の課題解決

マレーシア校のカリキュラムの特色は、課題解決型数や解析学の学びを深め、

1年次は統計学の基礎的な知識を身に付け、2年次は「日本文化と社会の理解」に関する授業もある。3年次はデータサイエンスに用いる線形代

データサイエンス活用し

人々が元気に活動する姿を目的とする。自分も、教育やロボティクスの研究に力を入れて行っていきたい。

1年次は統計学の基礎的な知識を身に付け、2年次は「日本文化と社会の理解」に関する授業もある。3年次はデータサイエンスに用いる線形代

期待膨らませる学生

第1期生となる学生は日マ両国の13人。日本とマレーシアの懸け橋になりたい」と話すなど期待を膨らませている。

第1期生となる学生は日マ両国の13人。日本とマレーシアの懸け橋になりたい」と話すなど期待を膨らませている。

多様な教員に魅力

マレーシア校は、クアラルンプール中心部にある国立マラヤ大の建物内に置かれた。同大ウイズマR&D棟の計7フロア(延べ約5000平方メートル)を借り受け、授業で使う教室、学修個室、畳を敷いた和風ラウンジなどが設けられている。

マレーシア校は、クアラルンプール中心部にある国立マラヤ大の建物内に置かれた。同大ウイズマR&D棟の計7フロア(延べ約5000平方メートル)を借り受け、授業で使う教室、学修個室、畳を敷いた和風ラウンジなどが設けられている。

同級生との距離近い

同級生は12人と少なく、全員と距離を縮めることができる。また、教員が14人と学生よりも多く、各分野

同級生は12人と少なく、全員と距離を縮めることができる。また、教員が14人と学生よりも多く、各分野



日本語教育担当 榊田奈津江准教授 (人社系)

学生の中には日本語初級者の中級者がいる。全体指導と個別指導を柔軟に使い分け、各学生のニーズやレベルに合った授業を行っている。学習言語の運用能力を高めるため、インタビュア活動やビデオ制作など、プ



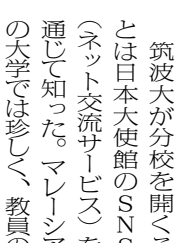
データサイエンス担当 望山洋教授 (シス情系)

課題解決の経験重ねて



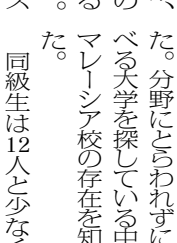
体育担当 醍醐笑部助教 (体育系)

心も体も健康に



アフィア・アブドル・ザキさん (21)

期待膨らませる学生



大野万凜さん (19)

同級生との距離近い

専任教員の思い

マレーシア校の専任教員は14人。このうち日本語データサイエンス、体育とマレーシア校の基礎となる科目を担当する3人の教員に教育方針などを聞いた。

マレーシア校の専任教員は14人。このうち日本語データサイエンス、体育とマレーシア校の基礎となる科目を担当する3人の教員に教育方針などを聞いた。

マレーシア校の専任教員は14人。このうち日本語データサイエンス、体育とマレーシア校の基礎となる科目を担当する3人の教員に教育方針などを聞いた。

マレーシア校の専任教員は14人。このうち日本語データサイエンス、体育とマレーシア校の基礎となる科目を担当する3人の教員に教育方針などを聞いた。

学生の行動力育てたい

文系、理系に関係なく全ての学生にデータサイエ

文系、理系に関係なく全ての学生にデータサイエ

文系、理系に関係なく全ての学生にデータサイエ

文系、理系に関係なく全ての学生にデータサイエ

文系、理系に関係なく全ての学生にデータサイエ

文系、理系に関係なく全ての学生にデータサイエ

文系、理系に関係なく全ての学生にデータサイエ

文系、理系に関係なく全ての学生にデータサイエ

海外進出した日本型高等教育

「日マの結びつき強めたい」 ザイニ高等教育省事務次官

マレーシア政府は分校設置をどう受け止めているのか。日本への留学経験者で筑波大客員教授でもあるザイニ・ウジヤン・マレーシア高等教育省事務次官に聞いた。(聞き手・松尾有姫、加藤緑)



マレーシア校の教育が国内に広がることを期待するザイニ事務次官(9月5日、マレーシア高等教育省で) =毛利嘉宏撮影

マレーシアは日本の大学の海外分校を世界で初めて受け入れる国となった。学生は日本人の勤労観や時間厳守などの道徳観を学ぶことができ、精神的・社会的に成長できる。筑波大が長年実践してきた質の高い教育がマレーシアで展開されることにより、マレーシアの高等教育が活気あるものとなる。

マレーシア校は学際的な学びと課題解決型研修(PLB)の二つを重視している。両者の組み合わせは非常にユニークだ。マレーシアで学際的な課程を開発している教育機関は珍しい。今後、マレーシアでも広が

るのではないかと。PLBでは、災害予防や持続可能な環境づくりなどでマレーシア社会に貢献することを期待する。

マレーシアはアジアの玄関口で、アジア諸国でキャリアを築き上げた学生の拠点となる。欧米と比べて学費や物価が安い。文化面では民族や宗教が多様という環境が整っていて、学生は国際理解を深めることができる。筑波大マレーシア校にも他国から多くの学生がやってきてほしい。

日本型高等教育の海外展開

中央教育審議会(中教審)は2018年11月、日本の大学は海外校の設置などを通じて国際展開を進めていく必要があると、文部科学相に答申した。背景には研究力の低下や少子化に伴う18歳人口の減少がある。

欧米の大学では教育力・研究力を向上させるため、1980年代から海外分校や海外キャンパスを開設する動きが増えてきた。遅れを取った日本でも文部科学省が2005年に大学設置基準を改定し、日本の大学が外国に学部、学科などの組織を設けることを認めたが、取り組みはなかなか進まなかった。日本の大学設置基準にのっとった海外分校で、日本の学位

が出せる海外分校の開設は

ライバルは英豪の大学

マレーシアには英国や豪州、中国など10大学の分校が既にあり、有能な学生の争奪戦が進んでいた。これについて文科省の担当者は「現地の海外分校と競争、協力することは大学の成長にもつながる。マレーシア校が成功し、筑波大に続く大学が出てほしい」と期待を寄せる。

文科省高等教育局の担当者はマレーシア校について「研究レベルで英語を話せる教員が育ち、教育内容の国際化が進んだことで海外展開できる実力が備



マレーシア校が入る(9月1日)棟R&Dが完成した(9月1日)マレーシア校の撮影

優秀な学生取り合う

マレーシアは親日国で、東方政策が進められるなど以前から緊密な関係があったが、他国では「日本の学

国内外から注目

マレーシア校開設は現地の日系企業にも注目されて



マレーシア校開設は現地の日系企業にも注目されて(9月2日、マレーシア校で) =加藤緑撮影

70万円)を同会議所の基金から支援すると表明した。澤村会長は「マレーシア校で学んだ人材が日系企業で働いてくれば、大きなメリットになる。日本の価値観や働き方を深く理解している人材は、異文化間の橋渡し役であり、信頼性が高い日本の製品やサービスを現地で提供する際の重要な戦力でもある。今後、マレーシア校への支援を継続したい」と語った。

日系企業も熱視線

「好奇心がなくなったらしいよ」

「好意がなくなったらしいよ」

「私も2009〜15年まで駐在したフィリピンで、会社人生の大先輩から頂いた言葉である。当時彼は70歳。その豊富なビジネス経験を買われて嘱託社員として駐在されていた。日々のささいな出来事から新しい商材まであらゆることに興味を持ち、「思い立ったが吉日」とばかりに調査・研究し、新規ビジネスの創

型論理を理解し身に付けることにより、世界の個人企業、国家を相手に共通の常識をもって渡り合うことが可能となる。そのことはビジネスをする上でも大変重要な」とマレーシア校での教育に期待を寄せた。

「日本のトップ大学の一つである筑波大が開いたマレーシア校が日本の教育の重要な」とマレーシア校での教育に期待を寄せた。

工学教育に需要

位は国際的な知名度が低い」からだ。また、分校の開設・運営にはかなりの資金が必要で、経営体力のある大学でなければそもそも進出が難しいという。

本紙はマレーシア校の開設に合わせて特派員団を現地に派遣し、関係者を取材

情報・図書館学類1年、川畑悠成(同1年)。



澤村会長(9月2日、マレーシア校で) =加藤緑撮影

「日本のトップ大学の一つである筑波大が開いたマレーシア校が日本の教育の重要な」とマレーシア校での教育に期待を寄せた。



澤村会長(9月2日、マレーシア校で) =加藤緑撮影

「私も2009〜15年まで駐在したフィリピンで、会社人生の大先輩から頂いた言葉である。当時彼は70歳。その豊富なビジネス経験を買われて嘱託社員として駐在されていた。日々のささいな出来事から新しい商材まであらゆることに興味を持ち、「思い立ったが吉日」とばかりに調査・研究し、新規ビジネスの創

型論理を理解し身に付けることにより、世界の個人企業、国家を相手に共通の常識をもって渡り合うことが可能となる。そのことはビジネスをする上でも大変重要な」とマレーシア校での教育に期待を寄せた。

「日本のトップ大学の一つである筑波大が開いたマレーシア校が日本の教育の重要な」とマレーシア校での教育に期待を寄せた。

「私も2009〜15年まで駐在したフィリピンで、会社人生の大先輩から頂いた言葉である。当時彼は70歳。その豊富なビジネス経験を買われて嘱託社員として駐在されていた。日々のささいな出来事から新しい商材まであらゆることに興味を持ち、「思い立ったが吉日」とばかりに調査・研究し、新規ビジネスの創

型論理を理解し身に付けることにより、世界の個人企業、国家を相手に共通の常識をもって渡り合うことが可能となる。そのことはビジネスをする上でも大変重要な」とマレーシア校での教育に期待を寄せた。



伊藤忠マレーシア会社 社長 星合大 さん

化学を専攻し、遺伝子組み換え技術を用いた酵母のアルコール発酵を研究する研究室に属した。医薬品や食品業界に進む先

だ。その後、日本に帰国

好奇心持ち人生を楽しんで

「私も2009〜15年まで駐在したフィリピンで、会社人生の大先輩から頂いた言葉である。当時彼は70歳。その豊富なビジネス経験を買われて嘱託社員として駐在されていた。日々のささいな出来事から新しい商材まであらゆることに興味を持ち、「思い立ったが吉日」とばかりに調査・研究し、新規ビジネスの創

「私も2009〜15年まで駐在したフィリピンで、会社人生の大先輩から頂いた言葉である。当時彼は70歳。その豊富なビジネス経験を買われて嘱託社員として駐在されていた。日々のささいな出来事から新しい商材まであらゆることに興味を持ち、「思い立ったが吉日」とばかりに調査・研究し、新規ビジネスの創

「私も2009〜15年まで駐在したフィリピンで、会社人生の大先輩から頂いた言葉である。当時彼は70歳。その豊富なビジネス経験を買われて嘱託社員として駐在されていた。日々のささいな出来事から新しい商材まであらゆることに興味を持ち、「思い立ったが吉日」とばかりに調査・研究し、新規ビジネスの創

「私も2009〜15年まで駐在したフィリピンで、会社人生の大先輩から頂いた言葉である。当時彼は70歳。その豊富なビジネス経験を買われて嘱託社員として駐在されていた。日々のささいな出来事から新しい商材まであらゆることに興味を持ち、「思い立ったが吉日」とばかりに調査・研究し、新規ビジネスの創

青春刻んで50年 みんなで「筑る」雙峰祭



50周年の節目を迎えた今年の筑波大学園祭(雙峰祭)。11月2日の前夜祭は雨天中止となったものの、3、4日の本祭には約3万人が訪れた。今こそ「雙峰祭」としてすっかり定着したが、初期には学生側が立てた企画を大学側が認めず中止となった歴史もある。関係者への取材を通して、雙峰祭の「今」と「過去」に迫った。(大竹翔川文学類、兼平麻央、横山心咲川比較文化学類、川上真生川社会学類、山本貴世、榎本聡子川国際総合学類、惣田賢斗川心理学類、壬生泰大川地球学類、毛利嘉宏川応用理工学類、三ツ木嶺花川社会学類)

学実委が特別企画

園祭実行委員会(学実委)は半世紀の歴史を振り返る「雙峰祭」の歴史を味わうハード面から雙峰祭に迫るの日は、そうした中、学50周年特別企画を実施し、



パネルの展示を見て楽しむ来場者(11月3日、総合交流会館で) = 川上真生撮影

半世紀の歴史たどる

世帯を超えて多くの来場者を集めた。大学会館で行われた展示企画が「Imagine the 雙峰祭」だ。雙峰祭の歴史を年代順にまとめたパネル展示と映像の上映があり、11月3、4日の2日間で延べ約1000人が来場した。パネル展示の中でも注目を集めたのが、1980年代の雙峰祭中止に関する記述だ。雙峰祭の開催を望む学生と大学との衝突など中止を巡る激動の歴史が、筑波大学新聞や学実委の実行計画書、筑波大学五十年史などの資料も踏まえて紹介されていた。

「爆」る芸祭

芸術専門学群の学生らが作品の展示や販売を行う「芸祭」は6A棟、6B棟、5C棟2階が会場となった。今回のテーマは「爆」。「爆発」の「爆」とゲームのキャラクターが増えるプログラムミス「増殖BUG」を掛け合わせた造語で、「芸祭」を拡大、拡散、拡張したい」という思いを込めた。爆発的な盛り上がりに向け、会場には約20企画、中でもフリーマーケット企画には約80サークルが集った。

6A棟3階で行われた芸祭公式企画「BAGU展」は、濃淡に富んだ芸術専門学群の学生17人が制作した作品が並んだ。企業を試みた。



小林さんの作品「記憶」(右)と「心にちは」(11月4日、6A棟) = 惣田賢斗撮影

画責任者の椎木美宇さん(芸専2年)は「あえて特定のテーマを決めなかった。芸専の学生が誰でも自由に展示できる場にしたかった」という。小林真理子さん(同2年)は「『爆発』の『爆』とゲームのキャラクターが増えるプログラムミス『増殖BUG』を掛け合わせた造語で、『芸祭』を拡大、拡散、拡張したい」という思いを込めた。爆発的な盛り上がりに向け、会場には約20企画、中でもフリーマーケット企画には約80サークルが集った。

そばたんで盛り上げ



「そばたん」のモニュメント前で記念写真を撮る来場者(11月3日、松美池前で) = 榎本聡子撮影

「そばたん」のモニュメント前で記念写真を撮る来場者(11月3日、松美池前で) = 榎本聡子撮影

気軽に書を楽しんで

有志企画「二筆どうで」が有志成企画「二筆どうで」を主催し、漢字の書体は楷書、行書、草書、篆書、隷書から選ぶことができた。

自由なテーマで出品 五十川さんは「さまざまなことを勉強し、それを自分のフィルターに通すことで、限りなくいろいろなものが描けると思う。知識と経験を増やし、人々に刺さる絵を描きたい」と語った。

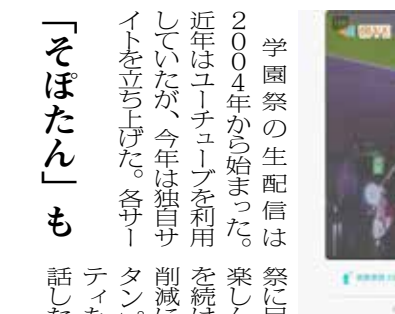


注文を受けて文字を書く書領域の学生(11月4日、6A棟) = 横山心咲撮影

「そばたん」は、今年も「そばたん」のモニュメント前で記念写真を撮る来場者(11月3日、松美池前で) = 榎本聡子撮影

「昨年を超える盛り上がり」

「そばたん」は、今年も「そばたん」のモニュメント前で記念写真を撮る来場者(11月3日、松美池前で) = 榎本聡子撮影



学実委は雙峰祭の独自サイトを開設し、石の広場の様子を生配信した。本祭の2日間で約1万5000回のアクセスがあった。

学実委は雙峰祭の独自サイトを開設し、石の広場の様子を生配信した。本祭の2日間で約1万5000回のアクセスがあった。

卒業生が集う場に



ロシア風の服装で接客に当たる所属学生(11月4日、体育芸術エリアで) = 青野心平撮影

強も兼ねて全てロシア語で会った学生たちが社会人になってからも集う場になっている」と語った。

露語サークルも50年目

ロシア語サークル「Ka Hика」(カリニカ)は、今年も「そばたん」のモニュメント前で記念写真を撮る来場者(11月3日、松美池前で) = 榎本聡子撮影

「そばたん」のモニュメント前で記念写真を撮る来場者(11月3日、松美池前で) = 榎本聡子撮影



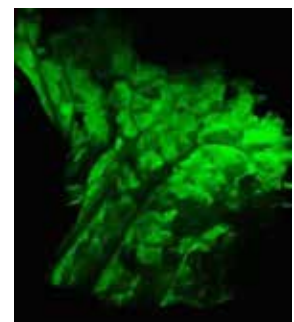
学実委は雙峰祭の独自サイトを開設し、石の広場の様子を生配信した。本祭の2日間で約1万5000回のアクセスがあった。

「そばたん」のモニュメント前で記念写真を撮る来場者(11月3日、松美池前で) = 榎本聡子撮影

「Hello! 先端研究」
 三浦謙治教授

たんばく質は筋肉や臓器など私たちの体を構成する主要物質だ。またホルモンや神経伝達物質などとして働き、体内のさまざまな生命現象を担っている。このため医薬品などとして有用なたんばく質を生産する技術の開発競争が世界中で続いている。

三浦謙治教授(生環系)らの研究チームは、特定の遺伝子を組み込んだ細菌(アグロバクテリウム)をレタスに感染させ、その遺伝子から効率よくたんばく質を生産することに成功した。レタスは都

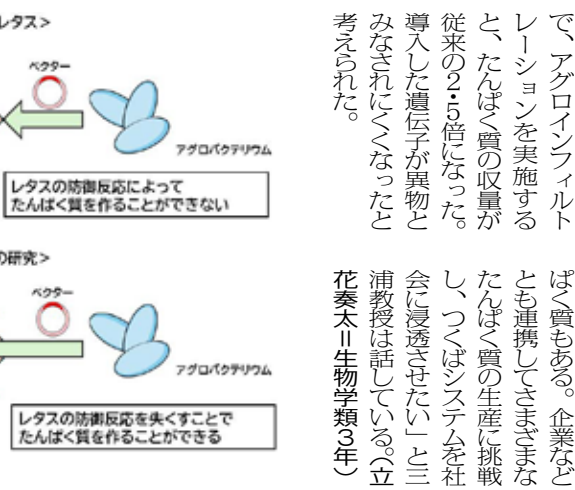


レタスの葉に発見した蛍光たんばく質。アグロバクテリウムが感染している様子。三浦謙治教授(生環系)らの研究チームは、特定の遺伝子を組み込んだ細菌(アグロバクテリウム)をレタスに感染させ、その遺伝子から効率よくたんばく質を生産することに成功した。

市部の植物工場に広く栽培されており、実用化されれば、有用たんばく質を安価に大量生産できる」と期待される。

三浦教授は「ベンサムアタバコと呼ばれるモデル植物を使い、大腸菌利用に匹敵する世界最高効率のたんばく質生産技術「つくばシステム」を2018年に開発した。

たんばく質の生産方法は大きく分けて二つある。化学合成と、たんばく質の遺伝子を生物に組み込んで作る遺伝子組み換えだ。このうち、

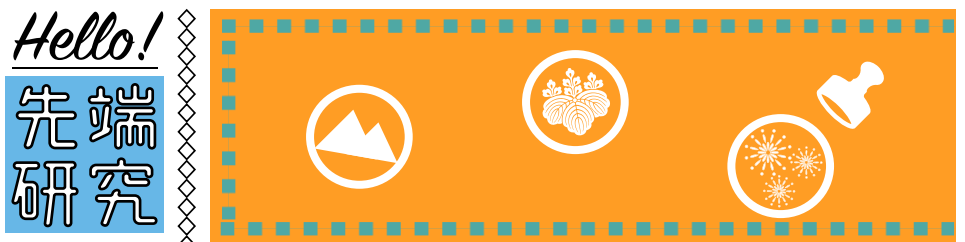


「つくばシステム」で社会貢献
 レタスでたんばく質を生産

生物を使った遺伝子組み換えでは、微生物や動物の培養細胞を使うのが一般的なため、植物を使う場合は、大腸菌などを使

レタスの葉に発見したたんばく質。アグロバクテリウムが感染している様子。三浦謙治教授(生環系)らの研究チームは、特定の遺伝子を組み込んだ細菌(アグロバクテリウム)をレタスに感染させ、その遺伝子から効率よくたんばく質を生産することに成功した。

「またタバコの方が収量は多いが、さまざまな植物でつくばシステムを活用する土台ができた。大腸菌では作れないたんばく質もある。企業などとも連携してさまざまなたんばく質の生産に挑戦し、つくばシステムを社会に浸透させたい」と三浦教授は話している。(立花奏太1生物学類3年)



運営の効率化を

後夜祭で話す委員長の長田さん(11月4日、UNITED STAGEで) = 川上真生撮影

委員長の話

学実委委員長の話

双峰祭は、約400人の学園祭実行委員会(学実委)によって支えられていた。

50周年ということにとら

どのような思いで準備を進めてきたのか。委員長の長田大器さん(資源2年)に話を聞いた。

(聞き手・山本貴世)

「自分たちの2024年双峰祭をつくることに重きを置いて、1月から準備に励んできた。」

コロナ禍を経て完全復活した昨年と比べ、今年は運営の効率化を図った。企画団体責任者連絡会の開催回数を減らし、配布資料をコンパクトにするなど、企画者の負担を減らすことにも力を入れた。

パンフレットの有料化やアーティストの招致、つくコレの男女枠撤廃など、新しい取り組みもたくさんあった。雨で前夜祭は中止になったが、大きな問題はなかった。

企画用のスペースを昨年より見え、大きなことをやり

夜祭のステージであじさいに立った場面だ。とにかく「いい景色だ」と感じた。来場者の笑顔だけでなく、学実委のメンバーや企画者たちが動く姿もほっと見えて、大きなことをやり

委員長の話

双峰祭は1980年と84年に中止された。学生が立てた企画を巡って大学と学生が対立したからだ。その後は恒例行事として定着したが、当事者の学生たちはどのような思いを抱いて行ったのか。85年に学園祭実行委員会(学実委)に所属し、86年に全代会(当時

「いい景色見えた」

より広がったが、場所やテントが足りず、企画数を制限せざるを得なかった。希望者全てに参加できるような、会場配置や備品管理の見直しが必要だろう。

委員長の話

双峰祭は1980年と84年に中止された。学生が立てた企画を巡って大学と学生が対立したからだ。その後は恒例行事として定着したが、当事者の学生たちはどのような思いを抱いて行ったのか。85年に学園祭実行委員会(学実委)に所属し、86年に全代会(当時



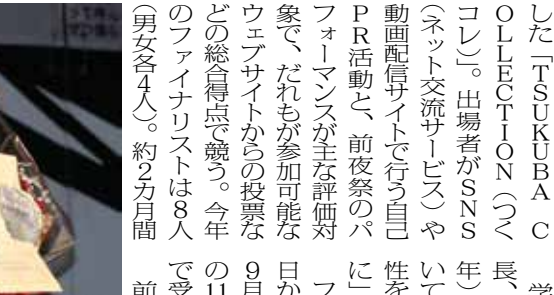
花束と賞状を手に笑顔を見せる神代さん(11月4日、UNITED STAGEで) = 川上真生撮影

男女枠廃止で個性発揮

活動期間中、自作の絵や日々の生活の様子などを伝えてきた神代さんは「中身が伴った自己PR活動を心掛けた。それも評価され、とてもうれしかった」と振り返った。

11月4日の後夜祭では、グランプリ発表前にファイナリストがドレスやタキシードを着用してランウェイを歩いた。このうち、地場亮介さん(白目2年)はドレス姿で登場。「性別に関係なく好きな服装をして良いというメッセージが心に響いた」との反響がSNSで流れたという。

山口さんは「動画配信では女性ファイナリストの方が高い評価を得る傾向があったが、総合では男性が準グランプリに輝いた。より多くの人に参加してもらい、上でも、男女枠撤廃は続けるべきだと思った」と話した。



岩間知行さん

自由な時間と議論大切に

我々86年の執行部は副学長だった芸術系の五十嵐治也教授(当時)から自由に対してどう思っているのか分らないが、今の時代は当時以上に混沌が目の前にそびえ立っているのではないかと、学生としては、大変懐かし、また、思わ

現在の筑波大が学生の自由に対してどう思っているのか分らないが、今の時代は当時以上に混沌が目の前にそびえ立っているのではないかと、学生としては、大変懐かし、また、思わ

大学の融和図った

正式名称は全学学類・専門学群代表者会議)の学内行事専門委員長を務めた岩間知行さん(昭和63年度生)に、当時を振り返ってもらった。

(聞き手・山本貴世)

筑波大の前身の東京教育大学は学生の去就に神経を感

岩間知行さん

自分からは「学生が自主的にやるもの」が大がかりな議論があった。この機会を自ら

活動期間中、自作の絵や日々の生活の様子などを伝えてきた神代さんは「中身が伴った自己PR活動を心掛けた。それも評価され、とてもうれしかった」と振り返った。

11月4日の後夜祭では、グランプリ発表前にファイナリストがドレスやタキシードを着用してランウェイを歩いた。このうち、地場亮介さん(白目2年)はドレス姿で登場。「性別に関係なく好きな服装をして良いというメッセージが心に響いた」との反響がSNSで流れたという。

山口さんは「動画配信では女性ファイナリストの方が高い評価を得る傾向があったが、総合では男性が準グランプリに輝いた。より多くの人に参加してもらい、上でも、男女枠撤廃は続けるべきだと思った」と話した。

広告欄

掲載のお問い合わせは
 shinbun@un.tsukuba.ac.jp
 までお願いします。

女子連覇 青学下す MVP・リベロ賞に中村



アタックを打ち込む阿部 (12月1日、決勝戦で) = 川畑悠成撮影

【船橋市総合体育館(千葉県船橋市)で山本貴世II国際総合学類2年、川畑悠成II知識情報・図書館学類1年(全日本学生選手権(インカレ))が11月25日〜12月1日に開かれた。筑波大女子は決勝で青山学院大と対戦。セットカウント3-1で勝利し、2年連続10回目の優勝を果たした。女子の最優秀選手賞とリベロ賞に主将の中村悠(体専4年)、ブロック賞に本田凜(同3年)、セッター賞に熊谷仁依奈(同2年)が選出された。

バレー

進決勝は昨年の決勝で当たった東海大と対戦。筑波大は第1、第2セットとも序盤にリードしたが、雪辱を期す東海大の反撃にあい、いずれも落とした。後がなくなった筑波大は第3セットからミドルブロッカーの田代澪(同1年)を投入するなど、悪い流れを断ち切ろうとした。このセットを25-23で奪うと、第4、第5セットも連取し、決勝進出を決めた。

リーグの優勝校、青山学院大と対戦した。第1セットを25-18で先よく先取るも、第2セットは要所で青山学院大の攻撃を守り切れず、21-25で落とした。第3セットは23-18とリードするも、青山学院大の猛攻を防ぐことができず4連続失点。1点差まで追い上げられた。しかし、足首のけがから復帰した阿部明音(同2年)の時間差攻撃と本田のブロード攻撃が決まり、25-23で奪取した。第4セットはジュースにもつれ込む大接戦。今大会で調子上がった瀧澤凜乃(同2年)と阿部の両アウトサイドヒッターが要所でスパイクを決める。28-27でマッチポイントを握った筑波大は門田湖都(同4年)がライトからスパイクを決めて29-27とし、セットカウント3-1で勝利した。試合後、中村は「今年は絶対的エースがいなかった。その分、目の前の1点1点を積み重ねていくことを意識したことで、連覇することができた」と語った。また、決勝で最も活躍した選手に贈られるMVP賞を獲得した熊谷は「受賞はチームみんなのおかげ。接戦になっても勝ち切ることでできて良かった」と振り返る。

卓球

個人種目の大学日本一を決める個人インカレでは男女シングルス、男女ダブルスの計4種目が行われる。青井は牧野里菜(同1年)と女子ダブルスにも出場したが、4回戦で敗退した。女子シングルス決勝で青

青井2年連続準優勝

女子単 来年の勝利誓う

【所沢市民体育館(埼玉県所沢市)で大竹翔II人文学類1年、松尾有姫II比較文化学類1年、山本貴世II国際総合学類2年(全日本大学総合選手権個人)の部(個人インカレ)が10月28〜31日に開かれ、青井(同1年)が女子シングルスで準優勝した。男子シングルの三浦裕大(同3年)は準々決勝で敗れ5位だった。



ネット際のボールを返球する青井 (10月31日、決勝戦で) = 松尾有姫撮影

井は出澤杏佳(専修大)と対戦した。昨年決勝で戦い、敗れた相手だ。青井は雪辱を果たすため、出澤と同じラケット、ラバーをチームメイトに使ってもらうなど、大会前から対策に取り組んできた。そして臨んだ第1ゲーム、第4ゲームはジュースにもつれ込んだ末に、長いラリーを制して奪い取り、大に大勝した上に明治大の敗戦を待ち、得失点差で上回るしかない状況だった。最終節の試合前半は互いに譲らぬ戦いとなった。前半25分の相手シュートをGK佐藤が防ぐ一方、同35分にMF角がロングシュートを放つも枠外に外れた。前半戦はそのまま0-0で終了した。後半、後がない筑波大は猛攻を仕掛けるも相手の堅守に阻まれ、シュートを打てない時間が続く。後半30分にMF田村蒼生(同4年)がゴール前でシュートを決

2-2のイーブンに戻したが、第5ゲームを8-11で落す。後がなくなった第6ゲームでは、得意のフォアハンドから強打を決めるなど互角の展開が続いたが、ジュースの末10-12で振り切れられ、昨年のリベンジはならなかった。青井は「昨年と同じ結果でも悔しい。安易に失点してしまう場面が多かった。試合で勝ち切るという意識が高められるよう、練習に励み、来年こそは優勝したい」と振り返った。



女子 王座戦連覇 男子 初出場準V



鋭いサーブを放つ主将の毛呂 = 長浜功明さん提供

団体戦で競う全日本大学対抗王座決定試合(インカレ)が10月30日〜11月4日に有明テニスの森公園(東京都江東区)で開かれ、筑波大女子は2年連続3度目の優勝を果たした。初出場の男子も準優勝した。(松尾有姫II比較文化学類1年)

テニス

同大会は地域リーグを勝ち抜いた男女各10校がトーナメント方式で戦った。男子はダブルス3試合とシングルス2試合、女子はダブルス2試合とシングルス3試合で争われる。

連覇を目指した女子は第2セットで2回戦から登場した。順調に勝ち上がり、決勝で関西大と対戦した。第1ダブルスには主将の毛呂彩音(体専4年)と吉本菜月(同3年)のペアが登場した。第1セットは吉本の安定した返球と毛呂の積極的なラリーで第1ゲームを先取したが、その後は小さなミスと相手の好プレーが重なり、3ゲームを連取された。しかし、第5ゲームから立て直し、ミスをおそれない攻撃的なラリーで5ゲームを連取。6-3

で第1セットを奪った。第2セットは競り合う場面が多かったが、勝負所で強気なラリーでポイントを重ねて6-4で奪い、第1ダブルスを勝利した。毛呂と吉本がペアを組むのは約1年ぶりだったが、「吉本が積極的に意見を出し、ラリーでも引張ってくれた」と毛呂は話した。西尾萌々子(同4年)・吉田琴美(同1年)の第2ダブルスも約3時間の激闘を制し、優勝に王手をかけた。続いて行われたシングルス3試合では、毛呂と吉本が破れたものの、櫻田しずか(同2年)が勝利し、3勝2敗で優勝を決めた。櫻田の相手は関西大1年の田中伶奈。櫻田は第1セットを1-6で落とすも、最後まで力強く正確なショットを打ち続けてその後の2セットを連取した。

今大会が学生最後の大会となった毛呂は「昨年の優勝がプレッシャーになった時もあったが、主将としてチームを勢いづけられるよう、自分を奮い立たせた。チーム力の高さが団体2連覇につながった」と語った。男子も順調に勝ち進み、初出場決勝戦に進出した。決勝の相手は前年度準優勝の日本大。9試合のうちダブルス3試合を落とし苦しい展開に。シングルスでは田中佑(同3年)と可児優希(同1年)が勝利するも、2勝7敗で優勝には届かなかった。

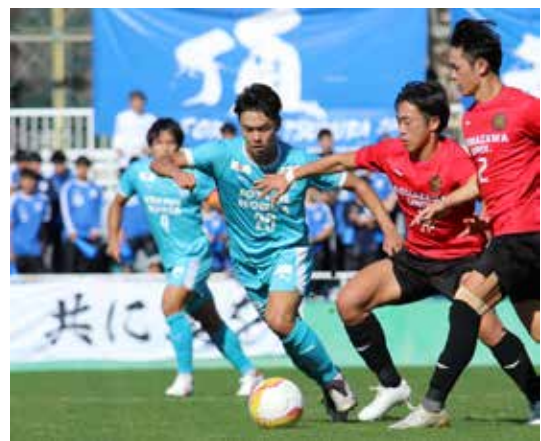
最終戦勝利も2位で終幕

ライバル明治大に及ばず

関東大学サッカー1部リーグは通年制で、12校が全22節で争う。筑波大はリーグ前半戦の11節終了時点で8勝1敗2分。勝ち点が26で暫定首位に立っていた。しかし後半戦に入ると、得失点差で筑波大を上回る明治大に勝ち点で並ばれ、首位の座を奪われた。その後も両者が勝ち点で並び、得失点差で明治大がリードする構図が続いた。この構図が崩れたのが第20節だ。筑波大は国士館大と引き分ける一方、明治大は東洋大に勝利し、勝ち点で2差をつけられた。

サッカー

さらに、11月10日の第21節で筑波大は桐蔭横浜大に0-1で痛恨の敗北。同節で引き分けた明治大と勝ち点3差で最終節を迎えた。筑波大の優勝には、駒澤大にゴール前でシュートを決



ドリブルで競り合うMF 廣井蘭人(左から2人目)(11月17日、駒澤大戦で) = 川畑悠成撮影

監督の小井土正亮准教授(体育系)は「今回の結果は悔しい気持ちがある。一つ一つの試合に反省点はあるが、シーズンを通して選手たちは成長した。12月のインカレでは、これまで積み上げてきたものをいかに発揮できるかが大切になる」とリーグ戦を総括した。

おわびと訂正

384号11面「インカレ悲願の団体初優勝」の写真説明で「卓球レポート提供」とあるのは「卓球レポート」の誤りでした。おわびと訂正します。

Who's Who?

日本比較生理生化学会会長賞

吉川 椋 さん (工シス2年)



賞状を手に喜ぶ吉川さん(10月22日、共同利用棟Dで)

キシヤヤステは、身長4.7ほどの節足動物だ。オスは30対、メスは31対の脚を持つ。大発生して汽車を止めることがあるので、この名が付いたという。対になった左右の脚が同じ動きをし、胴体部分が直線状のまま進む特徴がある。動画撮影と数理モデルを組み合わせてその動きを解析し、脚の動きがどうなるのか、波状の同期現象が起き

ているからだに突き止めた。その成果を今年秋の日本比較生理生化学会名古屋大会で報告し、発表論文会長賞に輝いた。同賞は学生(大学院生を含む)と若手研究者が対象で、55演題の中から選ばれた。「自分の研究が認められてうれしかった」と振り返る。キシヤヤステとの出会い、高校1年生の時。在籍していた甲

府市の高校の近くで、大量発生したことがきっかけだ。当時は自然科学部に所属しており、体が真っすぐのまま動く姿を「きれいだ」と思い、観察を始めたという。その後、脚の動きが縦波で表せることに気がつき、動きの変化を示す数式を導いた。この研究は日本土壤肥料学会の高校生による研究発表部門で

ヤスデの脚の動き解析

災害現場で役立つロボット作る

優秀賞を受賞。キシヤヤステの動きをロボットで再現し、足場の悪い被災地などで活動できるロボットを作りたいと思うようになった。高校卒業後は筑波大総合学域群第2類に入学。中学時代からプログラミングにも興味があり、どの学問領域に進むかを迷った末の選択だった。入学後は、プログラミングに関する授業も履修しつつ、自主的に研究できる同学域群の学際研究プロジェクトに応募。合原一准教授(シス情系)の指導を受けて、ヤスデの脚の動きの更なる解明に挑んだ。

キシヤヤステの片側の脚先に印をつけ、「DeepLabCut」という動画解析ソフトウェアを使ってその動きを記録。ホタルの輝きや時計の振りがタイムラップを撮る(同期する)現象を説明する数理モデルを応用し、ヤスデの脚にも同期現象が起きていることを突

き止めた。先行研究がなく、うまくいかないこともあるが「誰も足を踏み入れていない分野を自分の手で明らかにできることにワクワクする」と前向きだ。今後は脚の動きと胴体の動きの関連を調べたいという。「脚ごとに地形の高さを感じ、体の角度を自動調整できるヤスデ型ロボットができれば、災害現場などで、足場が悪く人間にとって危険な場所でも安定して物を運べるのでは」と語る。

将来は「常に視界を広く持った研究者を目指す。日本比較生理生化学会では生物の生態に着目した研究に多く触れ、「ヤスデの体の構造から動きを解析してみるのも面白いかも」という気付きを得たという。好奇心旺盛な若き研究者の卵は、より良い社会の実現に向けて、これからも真っすぐに進んでいく。(横山咲 比較文化学類2年、写真も)

体育合宿所 51年の歴史に幕

複合型体育施設建設へ

筑波大の開学時に事務局が置かれた体育合宿所の解体工事が今年8月に始まった。50年余の筑波大の歴史を刻んだ建物が来春には姿を消すことになる。跡地には宿泊施設や食堂を併設する複合型体育施設が建設される予定だ。

(川上真生 社会学類3年)



開学の際は三輪知雄初代学長らによって「筑波大学」の看板がかけられた。=広報局提供

体育合宿所は鉄筋鉄骨コンクリート造り2階建て、延べ1497平方メートル。1973年5月に完成した。当時は他の建物がほとんど建設途中で、同年10月の開学に合わせて大学の事務局が置かれた。同

月4日の開所式では、三輪知雄初代学長らの手によって「筑波大学」の看板が掲げられた。体育芸術専門学群棟(現5C棟、74年5月完成)に事務局が移ってからは運動部員らの宿泊施設として利用されるようになった。定員は123人で、長期休み期間中は申し込みが定員を上回り、抽選で利用を決めることもあったという。

五輪の体操競技に3大会連続で出場し、日本人最多の金メダル8個を獲得した加藤澤男名誉教授(78)も体育合宿所をよく利用した一人だ。77年の現役引退後は筑波大の現役引退後は筑波大の操縦技部の指導にあたり、当時、大学周辺には大人気で宿泊できる場所がなく、重宝した。貸し切って卒業生の送別パーティーを開いたこともあったと振り返る。

しかし、近年は個室が少ない造りなども影響して利用者が減少傾向にある。2019年12月に利用を停止し、運営体制の見直しを検討していた。筑波大体育スポーツ局は施設の老朽化を踏まえ、合宿所に隣接するハ

ンドポール場も含めて解体し、屋内アリーナを備えた複合型体育施設を建設することを決断した。屋内アリーナはハンドボールコート2面分以上の広さ(2000平方

メートル)を想定し、出入り可能な移動式観客席(約1400席)を整備する。完成すれば国立大で最大級の体育館となる。宿泊施設や食堂なども併設し、スポーツに打ち込みやすい環境を提供する。26年度中に運用を始める計画で、整備には大学債で得た資金を活用する。総事業費は38億5000万円を見込んでいる。

体育スポーツ局長の高木英樹教授(体育系)は「ピクトグラムやユニバーサルデザインを導入し、留学生や障害がある人も集まりやすい環境にする。単なるスポーツ施設ではなく、あらゆる人に開かれた場所を目指したい」と語った。



解体される体育合宿所(10月10日、つくば市天久保で) =川上真生撮影

追跡「結」プロジェクト

新通信方式を搭載 打ち上げ再延期し開発

最も初期から使われているのがCW方式だ。モジュール符号を電気信号に変換し、電波に乗せて情報を伝達する。また、送信する電波の周波数を変えることで情報を伝える。だが、これらの通信方式はノイズ(不要な信号)に弱いなどの問題があった。そこで、「結」が採用したのが、インターネットにセンサーや家



プログラムの確認するプロジェクトメンバーら =「結」プロジェクト提供

電、電子機器などさまざまなものをつなぐIoT(モノのインターネット)でよく使われるLoRa方式だ。LoRaは「Long Range」の略で、高度な周波数切り替えなどにより、ノイズの少ない長距離通信が可能だ。FSK方式と比べて消費電力も約4分の1に抑えられる。「衛星の軌道制御の計算など他のミッションに電力を回せる」と佐藤さんは期待する。

「結」の過去のプロジェクトでは、衛星との通信に成功した人同士が成果を報告し合うネットワークを作った。だが、LoRa通信を使うアマチュア無線家は少ない。プロジェクトメンバーは「結」の過去に比べて、さらに3カ月延期する見通しとなった。松島さんは「開発に全力を尽くし、完成を目指したい」と抱負を語った。(青野心平 物理学類2年)

編集後記

10月に投票された衆院選、つくば市長・市議選では、筑波大生を対象に出口調査をしました(2面)。衆院選の比例区では、「年収103万の壁」引き上げを掲げた国民民主党への投票者が4割を占めました。アルバイト学生が多い筑波大生の思いの表れでしょうか。今年9月のマレーシア校開校に合わせ、編集部員7人をクアラ Lumpur に派遣。日系企業や高等教育関係者、1期生などに幅広く取材し、期待や課題を特集しました(6、7面)。地球規模課題解決に向けて学ぶ

■筑波大学新聞編集委員会
▽委員長 内海真生(生命環境系・教授) 水環境生態工学
▽副委員長 中澤秋夫(学生部長) 委員 秋山肇(人文社会学系助教) 憲法・平和研究、嵯峨寿(体育系・准教授) レジャー・スポーツ産業論、時井真紀(図書館情報メディア系講師) 情報表現・物性理論

■筑波大学新聞編集部
▽編集代表 鴨志田公男(筑波大学・教授) サイエンスコミュニケーション
▽編集長 川上真生(社会学類3年) 副編集長 山本貴世(国際総合学類2年) 青野心平(物理学類2年) ほか編集部員23人

次号は、**2月19日(水)** 発行予定です

発行所 筑波大学 印刷 リンコム